

二〇一〇月二月16日(参加者一六名)

水仙の海になびきてなだれ咲く	こすもす
前髪の水滴となる春の雪	〃
玄関に泥大根の並びをり	〃
迷彩の模様は雪の残りけり	〃
水平線大きくたはむ春の海	〃
目を皿にして露の薑探しけり	宏 虎
さくさくとリズム生まれて水菜切る	〃
梅東風に踊りづめなる恋の絵馬	〃
凍蝶は祈りのさまに石に伏す	百 合
会釈して行き交ふ人や梅の園	〃
山焼の恐ろしくまた美しく	〃
鸞替へて札の仄かなぬくみかな	小 袖
大山の裾野を走る雪解水	〃
日溜りの蠟梅の香に佇めり	ひ かり
しろがねの比良をそびらの花菜畑	〃
風は春トランペットの響く園	つ ぐ し
しあわせを相語りあひ日向ぼこ	〃
行く雲の白きは春の使者のごと	明 日 香

通り雨やさしく思ふ芽吹き山	〃
鬼よりも女が強し壬生狂言	よ し 子
家族みな庭にでてをり春炬燵	〃
春寒し埴の羅漢は膝を抱く	菜 々
な散りそ鳥を寄せてはゆるる梅	〃
強東風に白波尖る明石の門	わ か ば
梅林のもやまで紅く染めにけり	ぼ ん こ
病院のロビーに小さき雛飾る	か れ ん
朝まだき梅林に香を一人じめ	き ず な
寺の梅神社の梅と巡拝す	は く 子

定例句会みの選

二〇一〇月二月16日(参加者一六名)